

第2章 縄文遺跡群と県内の構成資産

1 世界遺産としての縄文遺跡群の構成

縄文遺跡群は、本県に所在する鹿角市の大湯環状列石と北秋田市の伊勢堂岱遺跡を含む、北海道、青森県、岩手県の計17遺跡で構成されます。17遺跡が分布する範囲は、縄文時代において一貫して同じ地域文化圏を形成しており、住居跡等の遺構や土器などの出土品に共通性が認められます。

世界文化遺産としての価値は、それを示す顕著な普遍的価値を評価基準（iii）と（v）への適応により証明し、価値の内容を四つの属性として具体化して、各属性が17遺跡に保存されているという構造で整理されます。

顕著な普遍的価値 – 評価基準（iii）と（v） – 四つの属性 – 17の構成資産

（1）縄文遺跡群の顕著な普遍的価値

縄文遺跡群は、北東アジアにおける世界的にも稀な長期間継続した採集・漁労・狩猟文化による定住の開始、発展、成熟の過程及び精神文化の発達をよく表しており、農耕文化以前における人類の生活の在り方と精緻で複雑な精神文化とを示す物証として顕著な普遍的価値を有します。

（2）世界遺産登録の評価基準への適合

評価基準（iii）

現存しているか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希有な存在）である。

縄文遺跡群は、1万年以上もの長期間継続した採集・漁労・狩猟を基盤とした、世界的にも稀な定住社会と、足形付土版、有名な遮光器土偶などの考古遺物や墓、捨て場、盛土、環状列石などの考古遺構から明らかなように、そこで育まれた精緻で複雑な精神文化を伝える類いまれな物証です。

評価基準(v)

あるひとつの文化（又は複数の文化）を特徴づけるような伝統的な居住形態若しくは陸上・海上の土地利用形態を代表する顕著な見本、又は人類と環境のふれあいを代表する顕著な見本である。（後略）

縄文遺跡群は、定住の開始からその後の発展、成熟に至るまでの、集落の在り方と土地利用の顕著な見本です。縄文人は農耕社会に見られるような土地を大きく改変することなく、気候の変化に適応することにより、永続的な採集・漁労・狩猟の生活の在り方を維持しました。食料を安定的に確保するため、サケが遡上し、捕獲できる河川の近くや汽水性の貝類を得やすい干潟近く、あるいはブナやクリの群生地など、集落の選地には多様性が見られます。それぞれの立地に応じて食料を獲得するための技術や道具類も発達しました。

(3) 四つの属性

- ・属性（a）…自然資源を巧く利用した生活の在り方を示すこと。
- ・属性（b）…祭祀・儀礼を通じた精緻で複雑な精神性を示すこと。
- ・属性（c）…集落の立地と生業との関係が多様であること。
- ・属性（d）…集落形態の変遷を示すこと。

(4) 17の構成資産

- ・秋田県…大湯環状列石・伊勢堂岱遺跡
- ・北海道…垣ノ島遺跡・北黄金貝塚・大船遺跡・入江貝塚・キウス周堤墓群・高砂貝塚
- ・青森県…大平山元遺跡・田小屋野貝塚・二ツ森貝塚・三内丸山遺跡・小牧野遺跡・
大森勝山遺跡・亀ヶ岡石器時代遺跡・是川石器時代遺跡
- ・岩手県…御所野遺跡

2 秋田の縄文遺跡群の価値

(1) 歴史的な価値

大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡は、世界遺産である縄文遺跡群の構成資産として、また文化財保護法に基づく特別史跡、史跡としての価値を有します。考古学的、歴史学的な研究の対象であるだけでなく、自然科学等多分野の学際的な研究が推進されることで、先史時代の人々の生活について多くの知見をもたらすことが期待されています。

(2) 教育的な価値

大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡は、学校教育や生涯学習においてあらゆる年代の方々に縄文時代の文化を学習する場を提供しており、教育の場としての価値を有します。縄文時代についての学習は、持続可能な社会を指向する今日の社会で意義を有するとともに、景観や環境の保全に係る学びを得られる機会としても注目されます。

(3) 地域資産としての価値

大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡は、それぞれ地域の宝であり、アイデンティティの拠り所であるとともに、今日的観点で守り生かしていく場所としての価値を有します。両遺跡へは、観光等様々な目的での来訪者があり、交流人口の増加や地域の活性化に係る契機が提供されています。

3 構成資産の概要

大湯環状列石 は、鹿角市十和田大湯字万座ほかに所在する縄文時代後期前半（約4,000～3,500年前）の遺跡で、万座と野中堂の二つの大型環状列石を中心として、掘立柱建物跡や貯蔵穴、遺物廃棄域が展開します。遺跡の発見が昭和6（1931）年と古く、昭和26（1951）年に国の文化財保護委員会が調査し、昭和31（1956）年に特別史跡に指定されています。

大湯川と豊真木沢川に挟まれた台地の中央部に位置し、河川や森林の資源に恵まれた環境にあります。定住の成熟期（ステージⅢa）に位置づけられる二つの環状列石は、土偶などの粘土や石を用いた祭祀道具のほか、採集・漁労・狩猟に係る道具も出土しており、当時の祭祀・儀礼の在り方とともに、生業の在り方も間接的に示しています。



伊勢堂岱遺跡 は、北秋田市脇神字伊勢堂岱ほかに所在する縄文時代後期前葉（約4,000～3,700年前）の遺跡で、環状列石A～Dの四つの大型環状列石を中心として、掘立柱建物跡や土坑墓などが展開します。平成4（1992）年に大館能代空港アクセス道路建設に先立つ調査で発見され、その後の調査で遺跡の重要性が確認されたことを受けて、平成8（1996）年に工事計画を変更して保存が決められました。平成13（2001）年に史跡に指定されています。

湯車川に面した台地の先端に位置し、河川や森林の資源に恵まれた環境にあります。定住の成熟期（ステージⅢa）に位置づけられる四つの環状列石は、土偶などの粘土や石を用いた祭祀道具のほか、採集・漁労・狩猟に係る道具も出土しており、当時の祭祀・儀礼の在り方とともに、生業の在り方も間接的に示しています。

